

分科会案内

6/8 土 9:15~16:30

6/9 日 9:15~11:15

分科会の検討資料は、季刊「保育問題研究260号」（新読書社）に記載されているものを使用しますので、必ず持参して下さい。当日も販売しますが、数に限りがあります。
事前購入をご希望の場合は、各地の保研または新読書社までお問い合わせ下さい。（新読書社 FAX: 03-3814-3097）

1 乳児保育

「乳児保育」分科会は長い歴史があり、その時代の必要性に応じて乳児保育のより良いあり方を考えてきました。年齢別クラス担当基準をはじめ、乳児の生活と発達を豊かに保障する保育内容・方法、環境構成などを具体的な実践を通して検討していきます。昨昨、子育て支援3法案が国会を通過しましたが、新システムの主張と本質は変わらず、保育の市場化がさらに推し進められようとしています。制度のあり方も含めた、幅広い豊か議論を共にしていきます。

運営委員 菱谷信子(福岡) 横井美保子(東京) 亀谷和史(愛知) 松田千都(京都)
野村朋(大阪) 吉岡満貴子(岡山) 伊藤洋子(愛知) 中川伸子(広島)
西林正美(兵庫)

2 集団づくり

いま、人権と民主主義が問われています。子どもたちを民主的な主権者として人間らしく育てていくために、発達年齢にふさわしい豊かな集団生活を保障していきたいと思えます。自治的、民主的集団をめざし、子どもたちの現実や集団の現状をふまえて、実践の道筋と手立てをどう考えたらよいか、地域や家庭をも視野に含めた実践をどうつくりだすのか、また、保育者集団のあり方など、実践をもとに深めていきます。

運営委員 大元千穂(佐賀) 木村和子(愛知) 池田かよ子(東京) 山田栄子(大阪)
監信明(大分) 中島常安(北海道) 山本理絵(愛知) 長瀬美子(大阪)
古庄範子(熊本) 谷口敦子(京都) 丹野弘子(仙台) 光本弥生(広島)

3 あそび

保育界では、あそびの重要性が再び主張されています。そして、あそびの実践も活発に報告されています。あらためて子どもは、あそびのなかでどのような自分を育てていくのか、仲間とのように育ちあうのか、そのために保育者はどのようにあそびを組織し、発展させていけたらよいかこうした検討がますます求められています。それはあそびの内容によっても、年齢によっても異なります。栽培や園遊活動を含めた各地の実践をもとに「地域の自分の園のこともあったら」と思いを描きながら検討しましょう。

運営委員 亀谷純雄(東京) 木部孝克彦(神奈川) 岡村由紀子(静岡)
河崎道夫(三重) 勅使千鶴(愛知) 川内良子(福岡) 宮城千鶴(大阪)
三浦和恵(仙台) 加用文男(京都) 田中浩二(広島)

4-a 身体づくり運動

「身体づくり」は単に体を鍛えることではありません。「身体」とは「中身のある体」であり、「身体づくり」とは、人格のありようを含めてのからだの形成をしていくことです。この分科会は、運動を通して、どのような身体を、どのように育てていくのかを、子どもの最善の利益という視点から明らかにしていくことです。今なぜ、その運動なのか、その教材を通してどのような認識や感情、価値観を育てるのかなど、乳幼児期の発達に即して丁寧に考えていきましょう。

運営委員 塩田桃子(大阪) 雨宮みち子(北埼玉) 横井喜彦(愛知) 上月智晴(京都)
佐々木雄大(東京) 福井英二(福岡)

4-b 身体づくり食

「食」は生命を守り維持し、成長を保障する基本です。健康な身体は発達の基礎です。昨年の集会に引き続いて学期末まで見通した「食」を考えましょう。また父母や子どもたちの現状を支える新たな視点で実践を語り合しましょう。各地の給食センター化・委託化についても交流し、健康な子どもを育てるために何が必要な力なのかを共に考え合ひましょう。

運営委員 大下二三子(滋賀) 小西律子(兵庫) 長谷部幸子(北海道) 三上かおる(大阪)
柴美貴子(京都) 加藤雅美(愛知)

5-a 認識と表現文学

これまで提案され、話し合ってきた実践は多岐にわたっています。絵本の読み聞かせ・お話作り・劇あそび・劇づくり・紙芝居などの活動、教材としての絵本の分析、父母・地域とかわかる園文庫のとらえ、今日の子どもの文化を考えると、多様な実践に迫る共通の視点として表現活動を通じて認識を深め、子どもたちの生活をつくること、子どもたちの集団づくりとかわからせて文学の実践を深めることが認識されています。

運営委員 西川由紀子(京都) 田代康子(東京) 山崎由紀子(大阪) 徳永満理(兵庫)
藤野友紀(北海道)

5-b 認識と表現美術

子どもの絵のとらえ方や見方、指導のあり方について古くから保研研の中に多様な考え方や実践があります。毎年の分科会では、こうした積み重ねを丁寧に認識しあうと同時に、様々な実践の違う点も、結論を急がずじっくり実践の事実を丁寧に話し合う中で相互理解を深めていけたらと思えます。そこから見えてくるものを大切にしたいと話し合いたいと思えます。

運営委員 伊藤正雄(東京) 田中義和(愛知) 脇志津子(京都) 板井理(大阪) 平沼博将(京都)

5-c 認識と表現音楽

「音楽」は、子どもの育ち、人間形成にどんな役割を果たすのか、「音楽」が人間らしく、子どもたちの自由で伸びやかに楽しく、生きるとは力になるためには、乳幼児期の音楽教育はどうあったらよいのだろうか。音楽教育では認識とは何であるのか。子どもの発達を保障する・促す教材を、発達段階にそってどう選択していけばよいかなどを考えていきたいと思います。

運営委員 山並道枝(熊本) 藤波陽子(栃木) 丸山亜季(群馬) 安藤正彦(京都)
坂手佳子(大阪) 高橋陽子(北埼玉)

5-d 認識と表現科学

「科学」分科会は長年の成果を保研研シリーズ「確かな感性と認識を育てる保育」として出版しました。今日の社会にあたって「科学的なものの考え方」を身につけずしては生きていけません。子どもたちに「自然科学」への関心を持たせるには、どんな環境と方法が乳幼児期に必要なのかそして「科学に強い保育者の養成」についてさらに議論を重ねましょう。原発事故による汚染が拡散する中で、国際的に加害責任が問われています。子どもを守り生命を育むために、今何をしなければならぬのか、考え合ひましょう。

運営委員 清原みさ子(愛知) 富田昌平(岡山) 藤井修(京都)
吾孫子幹(愛知) 入江慶太(岡山)

6 保育計画

保育計画作成は、保育全般にかかわり、なおかつ基礎となる作業といえるでしょう。保育実践の根底にある子ども像、保育目標を自らの子どもたちの姿と家庭・地域の状況をふまえて検討し、職員間・保護者も含めて合意形成する必要があります。

「保育所保育指針」告示化された今経過して、長年保育計画について議論を積み上げてきたこの分科会で、計画作成だけでなく活用の仕方、職員集団づくり、保育記録、自己評価、保育費額など幅広い議論をしていきましょう。

運営委員 渡邊保博(静岡) 林若子(南埼玉) 合田史宏(愛媛) 早瀬真喜子(大阪) 荒崎寿子(京都)
吾孫子幹(愛知) 入江慶太(岡山)

7 保育時間と保育内容

子育てを始めた父母の労働や生活の大変さや多様さのなかで、保育時間は長くなり、日曜日や祝日も保育を実施する園が増えてきています。本分科会では、父母のそうした労働実態、生活実態、そこで一緒に暮らし、育つ子どものことを考えたい、努力したい、工夫したいこと、悩んだことなどを出し合って学んできました。それは、保育園とは何か、という話し合いでもありました。そのような状況を見つめながら、どのような目標や保育内容を作っていたらよいか、子どもとももちろん、父母ともどのようにわかっていったらよいか、保育者の労働条件をどうしていたらよいかなど、たくさんある課題をみんなで考えたいと思えます。

運営委員 清水民子(京都) 清水玲子(東京) 河本ふじ江(愛知) 横井洋子(北海道)

8 保育政策と保育運動

政府が進めようとしている、子ども・子育て新システムでは直接契約や直接補助方式が導入され、保育時間がバラバラにされるなど、子ども達の発達保障をいかにしろにした保育・子育て環境となり、ビジネスとしての保育の市場化が進むことになると危惧されています。また、多くの自治体では公立保育所の民営化が安上がり行政施策の目的で進められていますが、民営化反対の取り組みが公的保育制度を守るためとして、国や自治体に対する保育政策や子育て支援政策づくりに求める運動としても重要になってきています。規制緩和や自治体レベルでの最低基準の見直しが進められる中、各地域の状況や取り組みを交流し、私たちが今後どのような保育・子育て制度や環境を政策として掲げたいのか、一緒に考え、議論していきたいと思えます。

運営委員 近藤進(京都) 中村強士(愛知) 大宮勇雄(東京) 杉山隆一(大阪) 森山幸郎(鳥根)

9 障害児保育

障がいを持った子どもなど、保育において特別な支援を必要とする子どもたちへの関心が高まっています。支援が必要な子どもへの保育に取組むことは、クラスの子どもの全体の保育を見直し、職員集団や保護者との協力連携関係を構築していくことにつながります。それは、どの子どもも発達し保育に参加することを保障するインクルーシブな保育を実現することであり、保育の原点を再発見することです。これまでの障害児保育の優れた実践をもとに蓄積された理論を土台にしながら、この時代に必要実践を創造していきましょう。

運営委員 田中良三(愛知) 野本千明(滋賀) 浜谷直人(東京) 河合隆平(石川) 落合隆(愛媛)
杉山弘子(仙台) 田代玲子(岡山) 中野洋大(大分) 三山岳(京都)

10 父母と共につくる保育内容

人間らしく生きる力を生活の場で育む保育は、昨今の状況から見ても「父母と共に」を抜きに語れません。毎回、父母・保育者それぞれの立場から、お互いに手をたづさえての思いから出発した様々な実践が報告されています。父母と保育者との信頼関係をつくる・父母たちの保育参加を広げる・地域に根ざした共同の子育てを進める・父母と保育者が協力して新しい保育を創造するなどが討議されます。

運営委員 穴戸健夫(愛知) 綿見玲美(京都) 成富清美(福岡) 長瀬弥生(大阪)

11 乳幼児期の平和教育

平和的人間の形成は現代の教育の原点であり、人類的課題といえるものです。乳幼児期から子どもの中に平和のとらえ方を築く平和教育の営みは、平和な将来の社会を保障する重要な条件であり、最も確実な道といえます。平和とは、単に戦争が無い状態だけでなく、戦争を生み出す元となる飢餓、貧困、差別、失業、虐待などの無い、人権が守られている状態を指すものです。保育現場で、生きづらさを抱えている子どもたち、親たちに引き合い日々取り組んでいる、そのことが平和教育につながるものです。愛されているという安心感や自己肯定感を育てることも仲間と話し合う力を培うことも平和の心を育む実践といえます。平和教育は決して「敷居が高い」ものではないと、日常の保育をあらためて平和教育の視点でとらえ直していただくことから始めていきたいと思います。

運営委員 小川富士枝(静岡) 石川秀子(広島) 黒川久美(鹿児島) 船越美穂(福岡)
ウィーンフィロルドひろみ(沖縄)

12 地域に開かれた保育活動

保育園・幼稚園の保育が親に信頼され、子どもたちがしっかり育っていることを土台に、地域の子どもの中にもっと育ってほしいと願い、地域開放、体験保育など色々な子育て支援の取組が広がっています。しかし、気になる親子への対応が大きな課題になっています。親子の背景にある生活の重さや、親の未熟さなど保育園だけで抱えきれない問題も増えています。行政や専門機関との連携、民生児童委員など地域の住民組織との連携を日頃から視野に入れた取組が必要です。事例をもとに交流を深め、子育て支援をする今日的な意義を共に考えましょう。

運営委員 水野恵子(東京) 加藤哲雄(愛知) 野村上昭弘(大阪) 望月彰(愛知) 松浦英(兵庫)

特別講座 6/8 土 17:00~18:30

A わさび 私たちのねがい・希望でつくる保育・子育て政策

杉山隆一・中村強士(保育政策検討委員会) 保育者

B 静岡おでん 原発・子どもの命・保育 ~フクシマと未来をつなぐ~

コーディネーター：石原剛志(静岡保研研)
話題提供：齋藤美智子(福島) さくら保育園園長
新美真(静岡県民主医療機関連合会事務局長)
馬場利子(環境省環境カウンセラー・静岡放射能汚染測定室)

C 浜松ぎょうざ 絵本が語るいのちと平和

山崎翠(なかよし文庫代表) 和光大学講師

D かつお 第五福竜丸の話

枝村三郎(静岡県平和委員会)

E 富士宮焼そば 退職保育者による手作り文化で地域の子育て支援 ~わらべ歌あそびと手作り補助教材~

(定員 50 名) 富士保研研のなかまたち

F たまごふわふわ ダンプ園長とあそぼう ~つながりあそび~

(定員 200 名) 高田敏幸(仙台保研研)

G うなぎ 子どもの問題の中に発達をみる

加藤弘通(静岡保研研)

H さくらえび 保育士に伝えたいメッセージ

岩川直樹(埼玉大学教授) 「ちいさいななま」に連載中

I みかん 若者が語ろう！若者と語ろう！保研研のしゃべり場 ~みんなの悩み、思いをみんなで語ろう！~

聞き手：西川由紀子(京都保研研)

J お茶 茶歌舞伎 ~利き酒ならぬ「利き茶」お茶の味を飲み分けよう~

(定員 80 名) ※お茶・お菓子代 200 円
清水みずなのお茶を創る会

K いちご 整体的子育て ~からだの感覚を磨き、からだの声に耳を傾けます~

子どもも大人も元気に暮らしている
「身体技法」の実技もあり！
(定員 30 名) 山上亮(整体ボディワーカー)